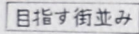


いとこの家談
私の家は父が
で有名な
母は専業主婦な
の勤現ともに家に
ことかばとて
そんな我が家で
た私は一姉に
ことか家族で
との証だと思っ
ました。

一方で、私のいと
この家は家族で過
す時間があまり短
の姉さんはいと
つ上で社会人な
うい頃の通事故
よってしだけ取
陸を待つていま
お母さんはいと
得来ルバーさん
身の回のお手伝
をしもらえる
に休日も働きに
てゐるのに、家に
ないのです。

住宅街は血の繋がる家族だけの場所じゃない！
人も空き家も取り残さない計画



全ての家庭の形に対応した街並み

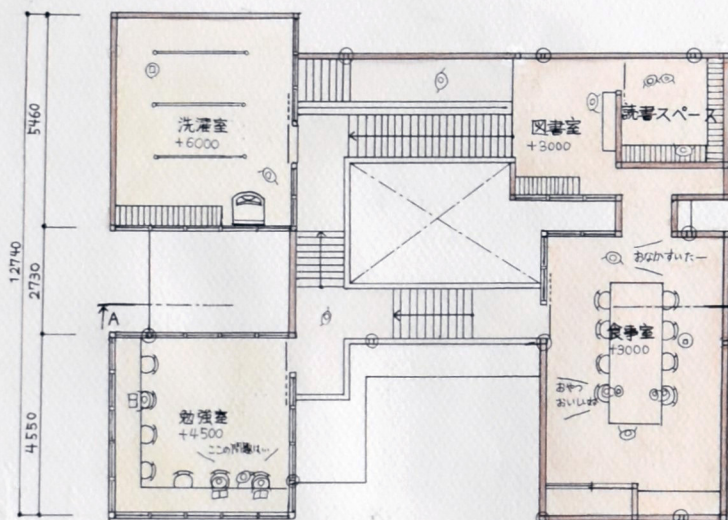
昼～夜のタイムスケジュール

小学高学年のお兄さんたちが先生に

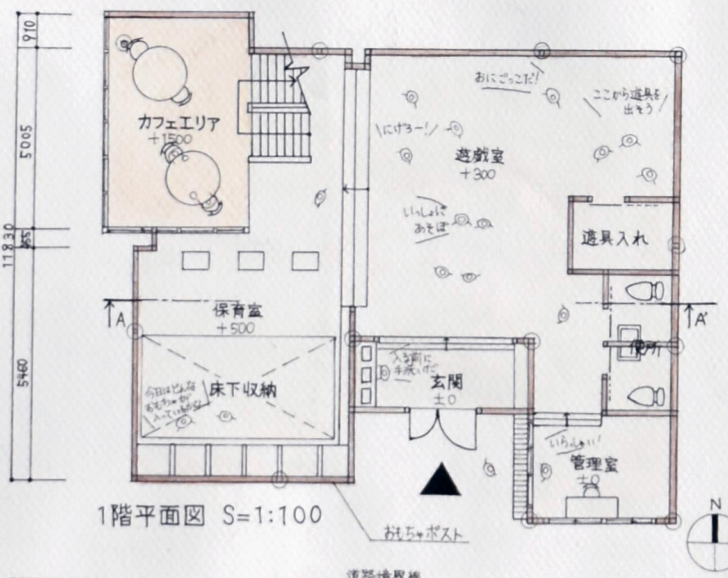


ペットの家

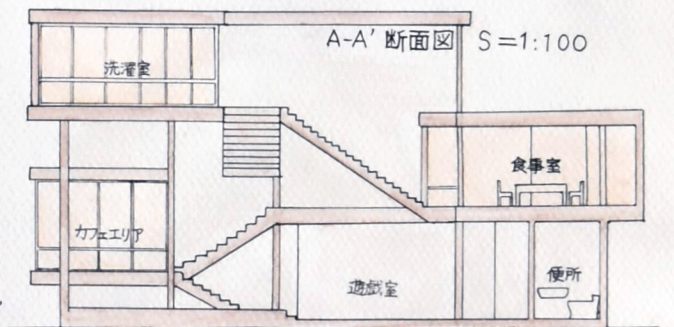
朝、出勤時に連れて行って友達ワンちゃんと1日を過ごす。(空欄問題解決)



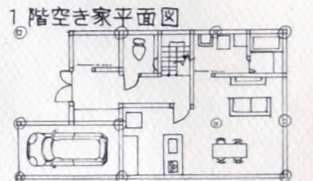
2階平面図 S=1:100



1階平面図 S=1:100

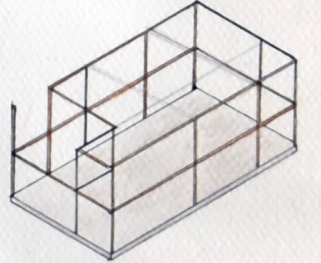


A-A' 断面图 $S=1:100$

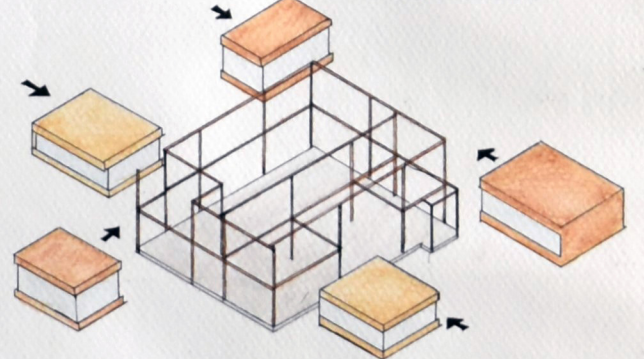


1 階空き家平面図

基礎と軸組のみの状態

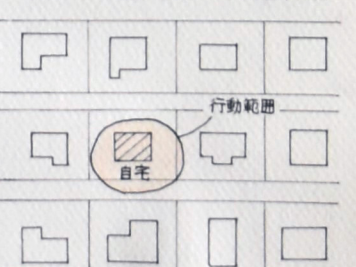


骨組みに部屋を取り付ける



●「血縁がある人の街」から「すべての人達が通ごしやすい街」へ
 このように、住宅地に空き家を活用した地域の家を作ることに伴って、今まで自宅のみだった住宅街の行動範囲が広がります。地域の人との交流が増えます。そして町並みは「血縁がある人の街」から「すべての人達が通ごしやすい街」へと変化するのです。これこそ私が考える「SDGsの先にあるわたしたちの社会」です。

今までの住宅街の行動範囲



血縁の家



20年1

2030

1

37

鉦

ここに泊まろう、



11

これからの街は「全ての人が過ごしやすい街」へ

子どもが作る子どもの世界

子どもたちが自分たちで考えた、やりたいことや「こうしたい」という希望を話し合って実現させていくことができる場所



この場所の仕組み

- この場所で望むことがあれば、提案をし、投票を経て実現させることができる
- 提案はボードに書き、その提案に質問や意見がある人は書きこむことができる

1 ボードに実現させたいことを提案する



やりたいこと、したいことがあればスタッフにボードと黒ペンをもらうボードに提案を書き設置する

黒ペンは提案者のみを使うことができる「紙が欲しい」など、スタッフがすぐに実現可能と判断した提案は、投票なしで実現する場合がある

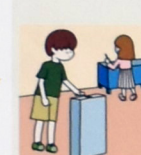
2 提案期間



提案者以外は提案に青ペンで質問や意見を書き、提案者は黒ペンで返答するそのやり取りを通して詳細を決めていく

提案者だけでは回答が難しい場合や知識が必要になった時にはスタッフが相談し、その地域の住民に協力してもらうこともできる

3 投票期間



二週間の提案期間が終わったら投票期間に入る投票期間になった時に設置してあるボードの提案はすべて投票の対象となる

投票用紙に記載された提案の中で実現してほしいと思ったものすべてに印をつけ、投票箱に入れる投票者数の三分の二以上の票を獲得すれば提案は可決される

4 提案を実現



可決された提案を実現させる時には地域の大人に協力してもらうなどして、自分たちで実現させる

提案の詳細が実現させるために不十分な場合、提案者と職員で話し合い、不足部分を定める可決できなかった提案は次の提案期間に同じボードを使ってもう一度提案できる

政治と地域

- 投票の仕組みを取り入れることで、異なる環境で過ごし、異なる個性を持つ子供たちが自らの持つ考えを表現することができる
- ボードの提案に対して質問や意見を書き込んだり、周りの人たちに相談しながら回答したりしていくことが、新たな交流のきっかけとなる
- 子供たちが大人の手を借りて提案を詳細に作っていくという施設の仕組みが結果的に地域全体で子供に関わる仕組みとなる

「もう一つの居場所」

- 年齢や通う学校が違う子供たちと関わることで様々な考え方に触れ、共に学び、考えを共有し、話すことで教育だけでは補いきれない学びができる
- 運動や学習など学校教育で評価される能力だけではなく、仲間との関わり方や自分の意見、感情の伝え方などの観点での良さを互いに見つけることができる
- この場所が子供たちにとって学校や家庭、習い事とは違う「もう一つの居場所」であることで「休む、逃げる、頼る」という選択をする手助けとなる



建物について

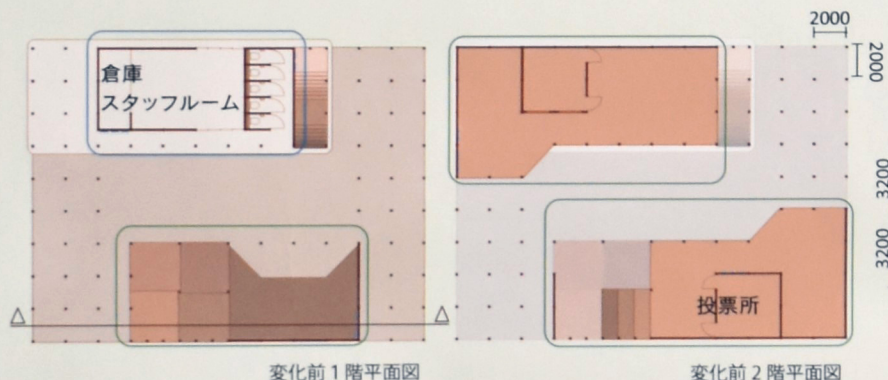
建物全体を変えられる

機能エリアを一箇所に集約し、それ以外の場所は空間ごとに変えることができる。

柱＝想像と創造の余地

床や天井がないため、柱を手掛かりにして平面だけでなく上下左右に自由な空間を展開することができる。子どもたちは自在に居場所をつくり、色々な場所や子ども同士を繋ぐようになる。

壁→領域感、居心地の良さ、中での関わり
柱→入りやすさ、外との繋がり



機能エリア:投票所や倉庫など、施設の運営に必要な機能が存在する
室内エリア:変化前から室内のエリア・天井がある場所

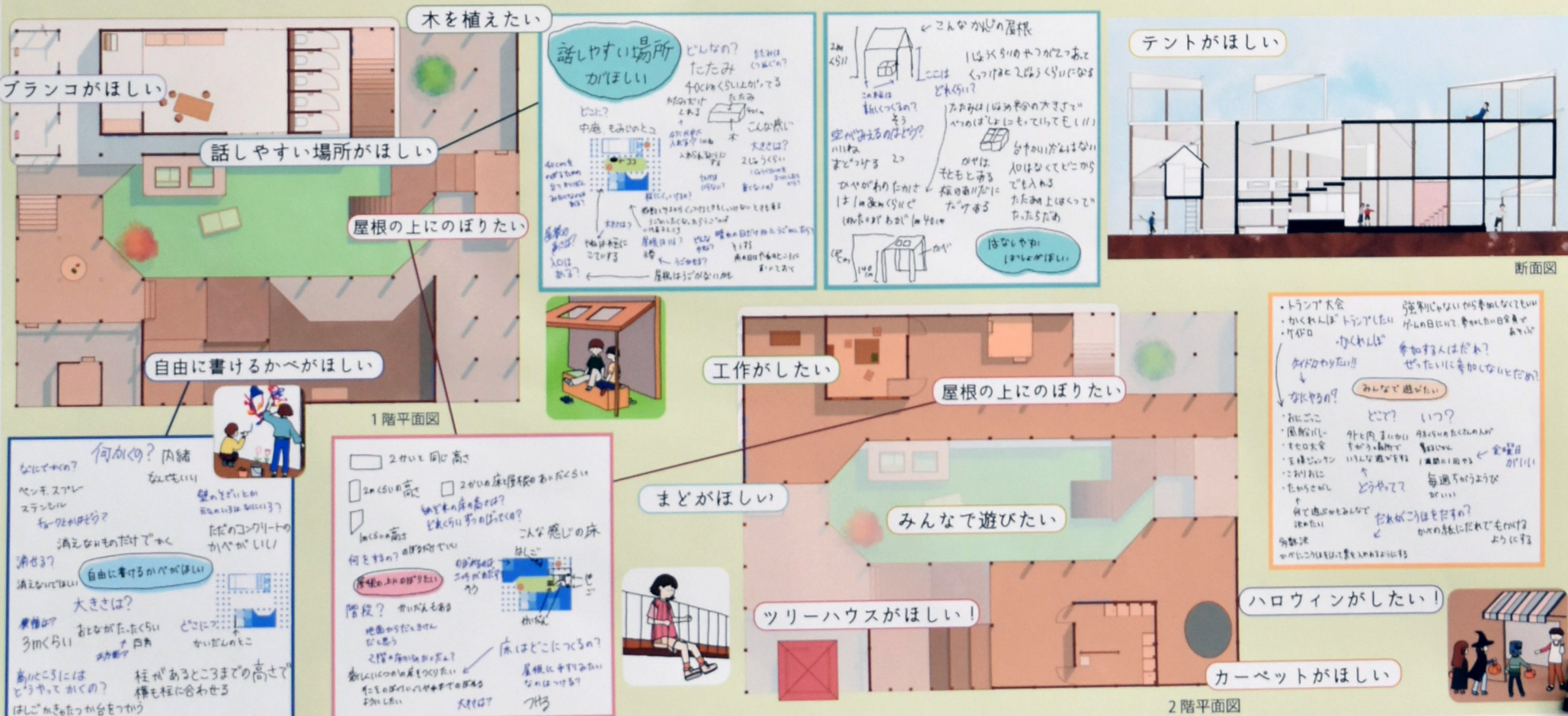


提案ボードと変化後の建物

ボードのやり取りの中で変化していく建物

黒ペン:提案者の提案と質問への回答

青ペン:提案への質問や意見



未来へつなぐ、じゃないほうの学校 里山フリースクール

Concept

人類はこれまでにない地球温暖化、異常気象、貧困、差別、飢餓、平等な教育、環境破壊など様々な問題に直面しています。地球の生き物の頂点である私たちが、これらのことを受け止め、一刻も早く問題解決に励まなければ解決することはできないと思う。私たちは2030年「持続可能な開発目標」を達成した後、一過性の危機感ではなく、必要なのは継続する事です。その為には未来を担う子供達に身を持って知って欲しいのです。

Walden; or, Life in the Woods

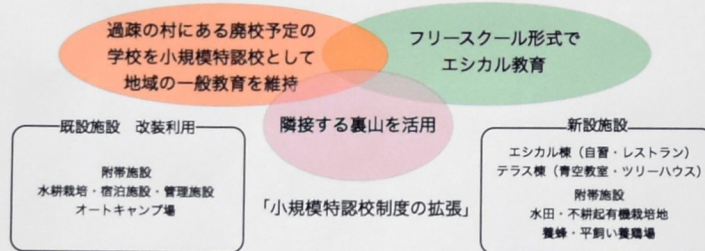
1854年 著者であるヘンリー・デイヴィッド・ソローは『ウォールデン 森の生活』で既に自然や湖、動物などの描写だけではなく、人間精神、哲学、労働、社会など幅広く提唱していた。

SDGsを達成した2030年の生活の常識となる自然環境にやさしく、人類にも優しい世界を続かせるような環境、未来の子供達が自分たちの小さなころの「当たり前」とは異なった「当たり前」に変える。生活のなかに自然を取り入れるのではなく、自然のなかに学びがある。ライフスタイルめざします。

この里山では、今まで私たちが受けてきた教育とは異なり、生きてゆく上で必要な自然のなかでの生活の仕方など今までとは全く違う教育の場です。「じゃないほうの学校」は、これからの学校のスタンダード！例えばお米の育て方や、野菜の育て方、生物との関係性、食材の調理の仕方などです。そんな中で人との関わりや優しさを学び貧困や差別のない社会を築いていければと思う。

Outline

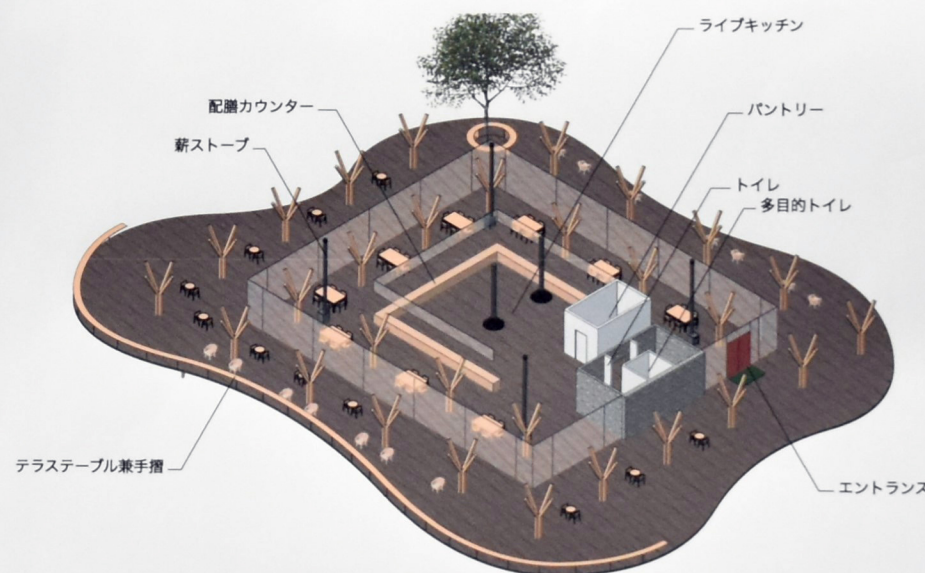
2030 里山フリースクール構想



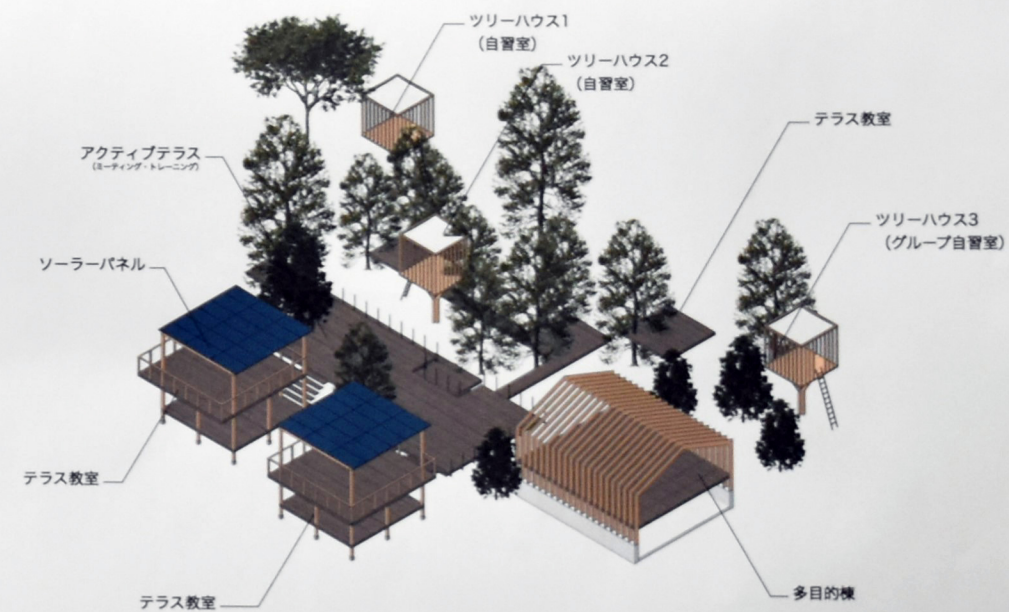
また、休日には県外からの幅広い層も受け入れ持続可能な運営を目指します。



配置計画図 1:10000



エシカル棟 等角投影図 1:200

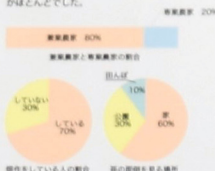


テラス棟 等角投影図 1:200



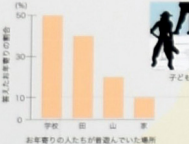
私の町は養蚕農家が8割を占めます。その7割が機織もしていました。お年寄りの方から

私の町は養蚕農家が8割を占めます。その7割が機織もしていました。お年寄りの方から

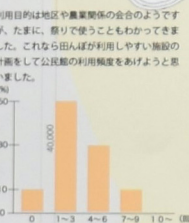


お年寄りにはお働き者が多くて、1日を田んぼや畑で過ごしている人が何人もいました。また、孫の世話をとって、水田や畑ではあきませんでした。ほとんどの家庭が、家と公園で面南を見ていました。そこで、続けてお年寄りの方々に昔のことについて話してみました。こどもの頃はどこまで一番遠くへあきましたか？」

1番は学校。次は、田んぼでした。昔は田んぼで遊んでいた。私の、小中学の頃は、田んぼで遊んでいたの、こどもが田んぼで遊ぶことがなかったのは、ここ10年間に限ります。田んぼでの遊びが禁止されているという理由もあるのだけれど、走り回って遊ぶ環境をもとめたとおっしゃいます。



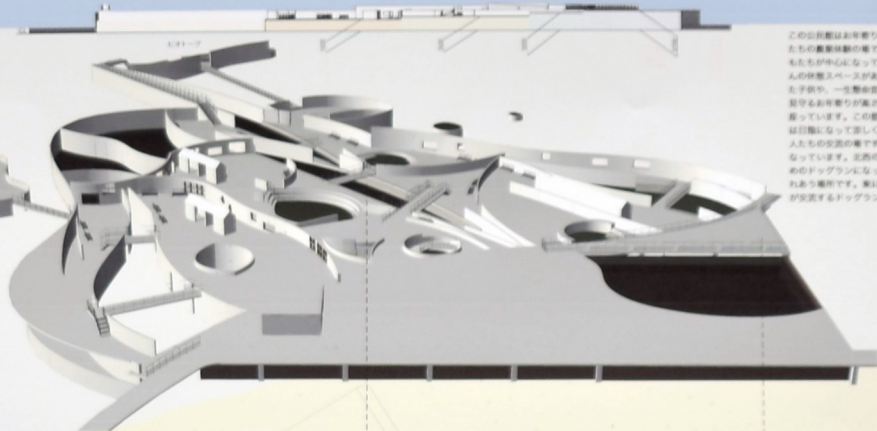
公民館の現状についても聞き取りをしました。この聞き取りの予想は、公民館はまったくまっていないということでしたが、回答は、想像していた以上に良く利用されていました。年間利用回数が1回から6回までで、8割を占めました。



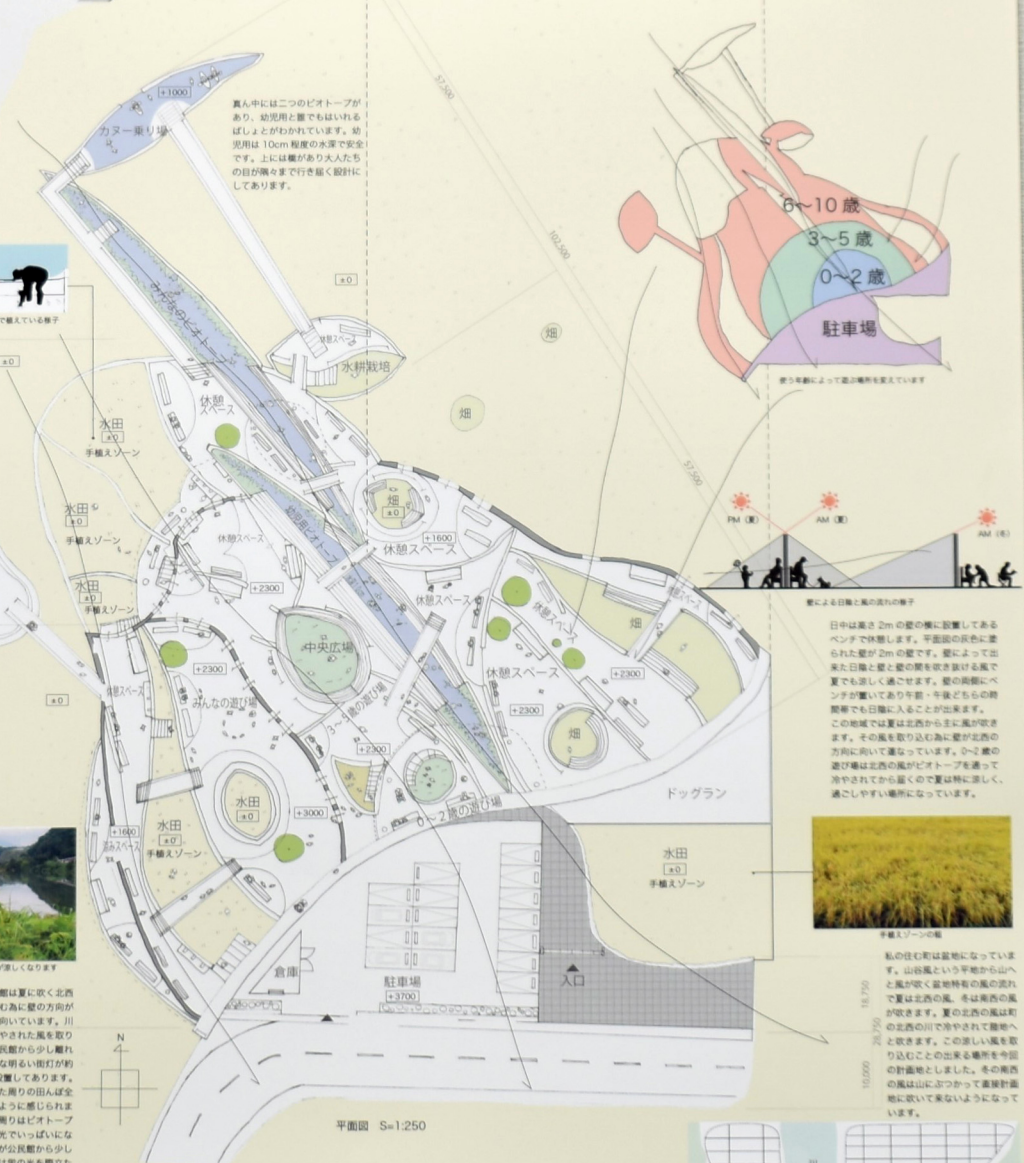
が今回提案するのは、お年寄りの方が昔遊
びた田んぼと畑で、孫の世話が復活した
、きっとこの町の風景がぐっと変化するよ
に思えてなりません。

としよりの方とお孫さんが、一緒になっ
て遊べたら、一日があつたという間に過
していくにちがひありません。

新大塚駅と風の通り



この公園は新年あそびと自然の憩いの場であり子どもたちの数多の憩いの場でもあります。お年寄りと子どもたちが中心になって利用する中で、お年寄りと子どもの休憩スペースがあります。数多の憩いのできた場所であり、自然が目に映える子どもたちの憩いの場を見守るお年寄りが高さ2mの壁の横にあるベンチで見ています。この憩いの場が休憩スペースと自然は自然になっくなくなくていきます。これは自然の人のための憩いの場です。これは自然の憩いの場にもなっています。自然の花のような形をして土壌の上に広がるのびのびになっています。これはまた自然の憩いの場です。自然にある憩いの場は主に自然が自然の憩いの場になっています。



私の住む町は盆地になっています。山谷風という平地から山へと風が吹く盆地特有の風の流れて夏は北西の風、冬は南西の風が吹きます。夏の北西の風は町の北西の川で冷やされて緑地へと吹きます。この涼しい風を取り込むことの出来る場所を今回の計画地としました。冬の南西の風は山にぶつかって直接計画地に吹いて来ないようにしています。

この屋外公民館は夏に吹く北西の風を取り込む為に壁の方向が北西の方向に向いています。川を通過して冷やされた風を取り込みます。公民館から少し離れた所には大きな明るい街灯が約30m間隔で設置してあります。街灯で囲まれた周りの田んぼ全体が公民館の周りに感じられます。公民館のようはビオトープで育った宝の光でいっぱいになります。街灯が公民館から少し離れているのは宝の光を隠したくない為でもあります。

らという理由で畑をしています。この公民館をお年寄りが孫を連れてきたり散歩で寄っていく寄り合い所になることで暇な時間を公民館の管理にあててもらいます。

自然の力で過ごしやすく、地域のお年寄りによって管理されるの口のお公民館を意識して樹立をしました。

川の上を通過して冷やされた風が公民館へと流れ込むことで夏の暑い日でもこの公民館は空調を使わずとも涼しく、照明も要りません。光熱費が要らずランニングコストを低減できます。

一番大事な管理は町のお年寄りにしてもらいます。私の町のお年寄りは

この解決策として公民館を屋外に設けます。日中は太陽光と壁によって

とランニングコストの問題があげられます。そこで問題を考える公民館を無くすのではなく新しい公民館の形を考えました。グラフでも説明したように田んぼや自然の中で遊ぶ機会が減っています。やはり子どもたちには自然に触れてほしいのでお年寄りや自然の中で孫の世話ができる

山
住宅
山

やされた空気 暖かい空気

住宅

川

